

ネットワーク通信

発行：JAL争議支援全国ネットワーク事務局
連絡先 E-mail: Tokyo_renranku@fight.chips.jp

第2回運営会議の報告

7月26日に林野会館において、運営会議はリモートを含め多くの参加者で開かれました。

赤堀共同代表の司会進行で行われ、金澤共同代表から「危険な暑さの中参加され感謝したい」と思います。参院選後、様々な動きの中、『石破辞めるな』などの行動があり、世の中の動きと政治の岐路なのか転換点ではないか？JAL争議への影響も考えられるが、解決のために全国ネットワークを立ち上げてきました。現在支援団体に、挨拶まわりをしています。この15年の闘いに報いるために支援をしていきます。そして、出来たばかりなので皆様と歩きながら、考え方論し行動を展開していきます。」と挨拶がありました

3人（福田昭夫衆議院議員・指宿昭一弁護士・松丸和夫中央大学名誉教授）の方からのメッセージの紹介後に、議事の進行に入りました。

共同代表の確認と申合せの確認を行い承認されました。

JHUの山崎書記長から争議の状況が報告されました。8/1の大会で今後の主な取組みを確認すること、6/11の都労委報告として、9月には命令が出される予定なので、JHUとしての対応が求められること。株主総会での社長発言等の報告がありました。

その後は各地の取り組みを、徳島・茨城・仙台の国労の方々から受けました。



四国キャラバン行動

1. 各県の労働局への要請行動 2. 街頭宣伝行動 3. 夜の学習交流会等々と各地での取り組みがなされてきました。JAL争議と最賃1500円の要求の闘いを結合して行ってきました。今年で、5回目の行動になりますが、上申書の回答を貰ったことはないが、今回は対応の変化が若干見られた。全国的に労働局要請ができないか。

茨城・議員連絡会の結成

県内44市町村の内、32名の議員の参加で結成をしてきました。政治的な解決が求められてきました。地方からの意見を国会議員団に届け、解決するために、統一戦線が大事になってきています。

T議員の報告会で、JAL争議の報告もされてきました。県内1.2地区で行ってきました。それ以外の地域にももっと広めていきたいと考えています。

仙台の国労の報告

明日から、国労大会が行われます。東北三県で新たに地本となり、組織減は組合にとって大きな課題となっています。「65才再雇用」の裁判闘争では、組合にとって大事な人たちを採用しないことで、抗議行動として、JAL 争議の街頭宣伝行動と合わせて、7/29 に行動を予定しています。

この三人の組合員は、職場代表選挙・執行委員であり、職場でモノ言う労働者です。JR の違法性を労基署要請行動、会社が嫌がる行動をしていきたい。9月には役員選挙がありますので、精一杯頑張っていきたいと思います。

※今後の取り組みと課題について

(1)123便追悼行動

8・11JHU の羽田空港スタンディング行動

(2)JAL・厚労省・国交省に対する要請行動

(3)戦線の拡大強化について

(4)都労委と政治の動きを鑑みて年末までの取組み

◆都労委命令が出された時の対応を想定する。

◆いずれも、JHU との緊密な協議が求められます。

以上



«意見・質問»

- ◆JAL・国交省・厚労省・航空局など、全国一斉に要請行動を行う体制づくりが必要。
- ◆運動の流れから、12月は例年通り本社包囲行動はするべきである。
- ◆衆議院選を想定して、10月～11月は地域で、議員への要請行動をしていく。
- ◆成田空港行動は、取り組むべきである。ネットワークとしての支援行動。
- ◆JALはネットの行動を注視しています。
- ◆8・11に向けて40年の節目の年、労組オルグで結集していく行動でもあります。
- ◆ジェンダーの視点から、女性の共同代表を入れるべきです。
- ◆みんなが参加できる行動や、地元の議員を利用し、12月の大集会に向けていく。
- ◆8/1 大会後にJHUとの意思確認をしていきたい。緊急集会で、命令後に中労委・命令取り消し訴訟をやらせない、行動をしていくことが大事になってきています。

JAL争議団挨拶【近村乗員団長】

熱い議論、ありがとうございます。JHU としても、一日も早い解決は納得できるものです。

123便の事故の時は、アラスカに飛び立つ準備をしていた。機長は同期の人でした。会社の対応が酷かった。経営方針は変わってきたが、今でも人権を無視することも続いている。

最後に団結ガンバローで終了しました。

8. 11羽田空港スタンディング行動

1985年8月12日に、JAL123便が御巣鷹の尾根に墜落し、乗客乗員520名の尊い命を失いました。事故から40年の歳月が経つ中で、日本航空は本当に信頼される航空会社になったのか？昨年の羽田衝突事故とその他の案件等々を見てみると、疑わしいことではないか。

「地球より重い、人の命を軽くみてはいないか」と思いたくなることが、とても多すぎませんか。

私たちは、この日は犠牲者・ご遺族に哀悼の意を表するとともに、JALに安全最優先の経営を求めます。未だに事故原因に疑問がある中で真の事故原因はどこにあるのか。この事故を風化させではありません。現在では、社長以下社員17名程度しか事故を知らない現状にあります。その後の無責任な経営体制は、労働組合潰しとなる「職場でモノ言う労働者の排除」を狙ってきたものです。そして、2010年12月31日の解雇となりました。生きるための糧を奪うことは、「人権」を無視していることです。

私たちは、常に「空の安全」を追及してきました。それは人の命に直結するからです。

日本航空に対して、解雇争議を一日も早く解決し、「空の安全な運航」を強く求めます。

雨の足元の悪い中、温かいご支援に、心より感謝を申し上げます。



☆JHUと全国ネットワークとの定期協議が始まりました。月1回を目途に当面は

9月に出されると予想される都労委命令の対応と12月までの行動等を検討していくことになりました。

☆各地区の行動を報告して下さい。今回は、8. 12「徳島の会」街頭宣伝行動です。
(下記の左側)



12. 9JAL本社包囲行動

日時：12月9日（火）18時半～19時半

場所：JAL本社・天王洲アイル駅下車

主催：JAL争議団＆全国ネットワーク

☆福岡でも予定されていましたが、残念ながら大雨のために中止を余儀なくされました。

JAL争議支援全国ネットワーク第2回運営委員会へのメッセージ

2025年7月26日

JHU不当労事件弁護団 弁護士 指宿 昭一

JAL争議支援全国ネットワークを結成していただき、ありがとうございます。

JAL争議は、地位確認請求訴訟において最高裁で敗訴が確定し、その後、争議団の一部が会社との和解に応ずるという状況にあります。この困難な状況の中で、JHUを中心に、争議団が、納得のできる解決を目指して闘う意志を持ち、団結して闘争を継続していることがこの争議の力の源泉になっています。そして、この闘う争議団を支え、争議団と共にJALを追い詰め、当該が納得できる解決を受け入れさせていくことは、全国的な支援運動なくしてできないことです。その全国的な支援を繋ぎ、更に強い団結の下で、JALを追い詰めていくために、JAL争議支援全国ネットワークの結成は極めて有意義です。

不当労救済申し立ては、当該である争議団と支援による大衆運動の力を背景にして、解決のステージを作るものでしかなく、この闘争の勝敗が、この大衆運動の力によることは間違いありません。弁護団は、不当労救済手続きの中で、JALを法理論と道理でもって追い詰めつつ、争議団と全国の支援による大衆運動に合流し、共に闘います。

中央大学名誉教授 松丸和夫

JAL争議支援全国ネットワークへの期待

私は、今年4月25日のJAL争議支援大集会に参加して、会場いっぱいの参加者、素晴らしい合唱とナレーション、スクリーンの投影に大いに感動しました。

「トランジット」の時間は長くかかっていますが、目的地までのフライトをぜひ繋いで行きましょう。このたたかいは、多くの人びとの生き方そのものです。

相手はJAL本社だけでなく、国会議員、都労委や国交省を巻き込んで、多層的・多段階に発展しています。「労使関係」を長年研究対象してきた私も、このネットワークに参加して、研究の目的地に無事着陸できるよう微力を出し尽くします。

JAL争議支援全国ネットワーク

【第2回】運営会議のご開催にあたり、関係各位のお取り組み、ご尽力に心より敬意を表します。

去る4月25日、東京・王子の“北(ほく)とぴあ”において開催されました『争議支援大集会～勝利へのトランジットコンサート～』のご盛会、誠におめでとうございました。残念ながら私自身は参加することができませんでしたが、争議当事者たちの心からの訴え・切々たる叫びはもちろん、支援されている皆様方の覚悟と熱意が、ホールを埋め尽くした多くの参加者の共感と感動を呼び、そして勝利への心合せが改めて確認・共有できた！との、とても心強い知らせを受けております。本当に、お疲れ様でした。支援されている全ての皆様の勇気と正義に、改めまして心から敬意を表しますとともに、国会議員として多くの仲間とともに、支援の輪に加えていただいている私の立場からも衷心より御礼を申し上げます。

さて、昨年は特に、羽田空港での衝突死亡事故が発生するという、とても衝撃的な年明けとなってしまったことは、皆様もまだ記憶に新しいところだと思われます。私は国会議員の同志、そして「JAL不当解雇撤回争議団」の皆様とともに、特に事故発生の真相・原因等を現場の視点もご教示いただきながら考察し、JALの会社体質改善等についての課題共有も図りながら、“空の安全確保と争議解決”的め、これまでJALへの要請と問答を繰り返し行ってまいりました。しかし、残念ながら、相変わらずJALの対応は極めて不誠実なままであると言わざるを得ない状況です。

もう15年が経っています。何としても1日も早く争議の全面解決を勝ち取るために、引き続き、皆様とともに！改めまして私も、全力で取り組んでまいりますことをお誓い申し上げますとともに、これからも皆様方のネットワークをより強く大きくしていただき、さらなる力強いご支援を「JAL不当解雇撤回争議団」に、ぜひともお寄せいただきますよう心よりお願い申し上げ、私のメッセージといたします。

ともに頑張りましょう！

2025年7月26日

立憲民主党

衆議院議員(栃木2区選出) 福田 昭夫